



## エアゾール製品の廃棄

適量を均一に放出することができるエアゾール製品は、使い勝手に優れる一方で、可燃性の液化ガスが使われていることが多く、使用時・保管時に火気に近づけたり、高温環境に置いたりしないよう注意が必要です。また、廃棄時にも適切に処理をしないと思わぬ事故を起こすことがあります。<sup>1)</sup>



エアゾール製品を廃棄する際の注意点についてまとめました。

東京消防庁から公開された「令和 4 年版 火災の実態」<sup>2)</sup>によると、2021 年におけるエアゾール缶等による火災は 122 件発生しており、下記の表のようにまとめられています。

○2021 年のエアゾール缶等の火災発生要因

火災発生要因		缶の種類			合計			
		エアゾール缶*	燃料ボンベ	その他				
廃棄	穴あけ・ガス抜き	15	27	4	7	1	20	
	ごみ収集車	10		3		0		13
	その他	2		0		0		2
取り扱い不適		15		29		4	48 (39.3%)	
構造不適 (機器) **		0		39		0	39 (32.0%)	
合計		42 (34.4%)		75 (61.5%)		5 (4.1%)	122	

\* エアゾール缶：殺虫剤、消臭スプレー、ヘアスプレー、制汗スプレー、冷却スプレー、パーツクリーナー等

\*\* ガストーチバーナー等、燃料ボンベに装着して使用する機器の不具合

缶の種類別では、簡易型ガスこんろ用燃料ボンベによる火災が 75 件 (61.5%) 前年比 31 件の増加で、エアゾール缶では 42 件 (34.4%) 前年比 15 件の減少でした。廃棄方法が原因となった火災は、35 件 (28.7%) で前年比 12 件の減少でした。穴あけ・ガス抜きによる近くの火気からの火災の件数は 20 件で前年比 10 件の減少ですが、継続して発生しています。また、ごみ収集車からの出火は 13 件で前年 13 件と同じ件数でやはり継続して発生しています。

エアゾール製品を廃棄する際の基本は、「必ず中身を使い切ってから、お住まいの地域のゴミ出しルールを守ってゴミに出す」ことです。その際に注意すべき点としては、製品を使い切った後、少量残っているガスまで完全に抜き切ってからゴミに出すことです。エアゾール製品をゴミに出す際の手順は、下記ようになります。

- ① 缶を手で振って中身の有無を確認する。
- ② 「シャカシャカ」、「チャブチャブ」など音がしたらまだ中身が残っているので必ず使い切る。
- ③ 「ガス抜きキャップ」で残ったガスを出し切る。
- ④ 地域のゴミ出しルールに従ってゴミに出す。

缶の穴あけは、特に中身やガスが残った状態で行うと引火の原因になり危険です、ご注意ください。

エアゾールの中の噴射ガスには、液化石油ガス (LPG) やジメチルエーテル (DME) などが使われています。これらの可燃性ガスが残ったままでゴミに出すと、ゴミ収集車の荷室内でエアゾール缶が潰されてガスが噴出し、ゴミを圧縮する際に発生した火花に引火して火災事故を起こすことがあります。また、中身が入った状態で「穴あけ」をしないことも重要です。多くの自治体は「穴をあけずにゴミに出す」としていますが、「穴をあけてゴミに出す」よう指導しているところもあります。どちらの場合も、中身を使い切った上で、ガス抜きキャップを使い残ったガスまで完全に抜いておくことが肝要です。「穴あけ」は、エアゾール缶から内容液が一度に勢いよく噴出して液が顔や身体に掛かってしまう、噴出した可燃性ガスに引火して火災事故を引き起こすことがあるなどの危険性が指摘されています。

最近のエアゾール製品には、残ったガスを楽に、かつ安全に抜くことができるようにガス抜きキャップが装備されています。中身を使い切った上でこれを利用し、残ったガスまで完全に抜き切るようにしましょう。エアゾール製品の廃棄方法やガス抜きキャップの使い方については、日本エアゾール協会のホームページに分かりやすい紹介がありますので参考にされるとよいでしょう。<sup>3) 4)</sup>

台所のシンクや洗面台の流しは、水が流れることから噴射ガスも一緒に流れると考えてはいませんか。ガス抜きキャップを使って残ったガスを抜き切る時の場所も重要です。ガス抜きは、「**風通しが良く、火気のない屋外**」行ってください。残った中身を抜き切る時に中身と一緒に出て来ることとなりますが、どうしても後のことを考えると、水洗いできる台所のシンクや洗面台の流しで抜き切ることを行いがちですが、大きな危険を冒す可能性があります。

シンクや流しの下排水は、屈曲した U 字トラップなどの構造となっているため、排水管の途中には封止水が溜まり、下水の臭いが室内に直接入り込まないようにされています。エアゾールの中の可燃性の噴射ガスは、水にはほとんど溶けないので排水管から下水として流れず、比重が空気に比べて重いので低いところに流れ、封止水より室内側に滞留することとなります。室内で換気扇などを使ったとしても、シンクや流しの低い部分は空気の流れが滞り、噴射ガスが残りやすく、火気があれば引火して爆発を起こす場合があります。

ガス抜きキャップを使って缶に残った噴射ガスを抜き切る時は、必ず「**風通しが良く、火気のない屋外**」行ってください。エアゾール容器から出る中身は不要な布や紙に吸わせるなどをして、周囲を汚すことがないように注意してください。

どうしても使い切れない場合、まずはお住まいの地域のゴミ出しルールを確認してみましょう。そのような場合に限り収集している地方自治体もあります。また、相談先 (清掃事務所等) を案内していることもあります。

中身を自分で処理しようと思うが、適切な処理方法が分からない、またはエアゾール缶の噴射口が詰まってしまった、押しボタン部が破損してしまった等の理由でスプレーできないといった場合には、製品のメーカーのお客相談窓口にご相談してみましょう。製品特性を踏まえた適切な処理方法を案内して貰うことができます。毎日の生活に欠かせないエアゾール製品、使用から廃棄まで、事故のないように心がけたいものです。

【参考にした情報】

1) スプレー缶製品・カセットボンベによる事故の防止策－正しい廃棄で事故を防止！－；国民生活センター

[https://www.kokusen.go.jp/pdf/n-20200220\\_1.pdf](https://www.kokusen.go.jp/pdf/n-20200220_1.pdf)

2) 令和4年版 火災の実態；東京消防庁

<https://www.tfd.metro.tokyo.lg.jp/hp-cyousaka/kasaijittai/r04/index.html>

3) 正しいごみへの出し方；一般社団法人 日本エアゾール協会

<https://www.aiaj.or.jp/exhaust.html>

4) ガス抜きキャップについて；一般社団法人 日本エアゾール協会

<https://www.aiaj.or.jp/mechanism.html>

**必ずお守りください**



**スプレー缶(エアゾール缶)  
カセットボンベは  
必ず中身を  
使い切りましょう!!**

**火災事故が多発しています!**

中身の残ったスプレー缶、カセットボンベが  
ごみに出されごみ収集車両や、ごみ処理施設で、  
火災が発生しています。

**スプレー缶の場合↓**

**▶正しいごみへの出し方 4step!**

**step 1**

缶を手で握って  
中身の有無を  
確認してください。

**step 2**

「シャカシャカ」  
「チャップチャップ」  
など音がしたら、  
まだ中身が残っています。  
**必ず使い切り  
ましょう。**

**step 3**

音がしなくても、まだ中身やガスが  
残っている場合があります。  
**「ガス抜きキャップ」で  
出し切ってください。**

**step 4**

地域の  
ごみ出しルールを  
守って出しましょう。

**中身のガスを出し切るために、  
ガス抜きキャップを使いましょう!**

スプレー缶には**ガスを出し切るための  
「ガス抜きキャップ」**が装着されています。

※商品によっては、**「ガス抜きキャップ(中身排出機構)」「  
「ガス抜きキャップ(残ガス排出用)」「  
「ガス抜きキャップ(ボタン)」**等の表記を行うものがあります。

▼但し、下記のスプレー缶(エアゾール缶)商品には、ガス抜きキャップは付いていません。  
【例】●炭酸ガス、窒素ガス等の不燃性ガス使用商品(商品の表示をご覧ください)

**ガス抜きキャップを使う時には…**

中身を使い切ってから、  
風通しが良く、火気のない屋外で、  
風下に向けて、人などにかからないように  
新聞紙などに吹き付けるなどをして、  
周囲への飛散にご配慮ください。



ガス抜き  
キャップ

※ガス抜きキャップの形状、使用方法は、商品によって異なります。  
商品に記載された使用説明を必ずご覧ください。

※ガス抜きキャップについてのお問い合わせ先は、  
商品に記載の「お客様サポートセンター」までお問い合わせください。

**カセットボンベには、「ガス抜きキャップ」は付いていません。**

**カセットこんろはヒートパネルを搭載しています。(2007年4月生産分より)**

**ヒートパネルとは？(可燃ガス加熱装置)**

カセットボンベを適度に温める事で、最後まで  
強い火力を維持し、カセットボンベの中のガス  
を最後まで使い切ることが出来ます。

カセットボンベの処理  
については、  
一般社団法人日本ガス石炭ガス工学会  
【カセットボンベお困りセンター】  
0120-14-9990 までお問い合わせください。

●エアゾール製品処理対策協議会  
一般社団法人日本エアゾール協会(エアゾール製品処理対策協議会事務局 03-5207-8950) HP: <https://www.aiaj.or.jp/>  
日本化粧品工業連合会 一般社団法人日本化粧品工業試験会 日本家庭用殺虫剤工業会 生活資源リサイクル協議会  
社団法人緑の安全推進協会 日本エアゾール容器協議会 日本エアゾールヘルパッカー工業組合 社団法人日本塗料工業会  
日本オートケミカル工業会 芳香消臭剤製剤協議会 日本石炭ガス工学会 日本製薬団体連合会

●中央適正処理困難指定廃棄物対策協議会